

3.3 防腐・防蟻工事

防腐・防蟻工事を行う場合の総合的な記載箇所が設けられています。

まず土壌ですが、薬剤によらない方法としてベタ基礎等で基礎を計画する方法があります。最近ではベタ基礎+外断熱も多く見られます。住宅金融支援機構監修「木造住宅工事仕様書」でも長野県はイエシロアリの被害が想定されない地域になっており（事実イエシロアリは今のところ長野県には居ません。）寒冷地の熱橋・熱容量対策に基礎外断熱が望まれています。しかしヤマトシロアリによる基礎断熱被害が増えておりベタ基礎であれば防蟻的に安全とは言い切れません。コンクリート打ち継ぎ面や立ち上がり基礎セパレータからの白蟻浸入も考えられます。薬剤散布や防蟻シート・粒剤等の設置などによる地盤の防蟻処理の検討と断熱材設置位置の検討が必要です。

薬剤や防蟻部材の認定の状況や使用は、日本しろあり対策協会と日本木材保存協会のHPを参照してください。

木部処理の細かい内容については、2.1～4の部位別の材料仕様に記載がありますので、総合的な内容として再度記入をしてください。

<記入例>

部 位	薬 剤	特 記 事 項
土 壌	日本しろあり対策協会認定薬剤による	日本しろあり対策協会 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書による
木部(立上 1 m)	〃	〃